
空想高校生

鬼祓師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空想高校生

【Nコード】

N8986T

【作者名】

鬼祓師

【あらすじ】

初めて書いたので至らないところもありますが、よろしく願います。

気軽にコメントよろしく願います

日本刀

僕はいつも通り高校への道を歩いていた。

ときたま思うことがある。空から悪魔やドラゴンが降りてきてぼくを違う世界につれていってくれないかと。

まあそんなことはあるはずもなく、こんなことを考えている間に教室についてしまっていた。

授業の間もそんなことを考えているのだが、成績は以外にも上位に
くい込んでいる。

そして帰り道。

いつも通り一人で帰宅した。

実家から出てこの高校に通っているのも、憧れていた一人暮らしだ。だが理想と現実とは遠くすべて一人でやるので疲れがたまっていた。

『ピンポン♪』

急にチャイムが鳴った。

時計は午後19時30分を指していた。

こんな時間に珍しいな、と思いながら玄関に足を運んだ。

「いま、でまーす」

そう言いながらドアを開けた。

『宅急便でーす。これと、これです。判子お願いします。』

「はい。」

『…確かに渡したからね』『…え?』

その言葉を聞いたと思った瞬間、宅急便の人は消えていた。疲れがたまっているのだろうと思って深くは考えなかった。

とりあえず荷物を開けるか、とガムテープに手こずりながらなんとか開けた。

「え”!?”」

中には刀身が無い日本刀があった。

その日本刀には鞘に見たこともない魔方陣が彫ってあった。
もうひとつも開けた。

中には、真っ赤な石が入っていた。

何に使うのだろうと思ったとき、日本刀の中から、

「ハヤクオレヲココカラダシテクレ!!!」

と直接脳内に声がした。

僕は日本刀を鞘から抜いた。

日本刀からまるで目の前に太陽があるかのように光輝いた。

「ふう〜。刀から出るのは何百年ぶりだろう!!!」

そいつは体を伸ばしながらしゃべっている。

こんなことが目の前で起きているのになぜか落ち着いていた。

願ってたことがついに願ったのだ!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8986t/>

空想高校生

2011年10月9日07時59分発行